

## 発刊に当たって

近年、水稻の直播栽培は、規模拡大に伴う労働力配分の適正化や水田輪作体系の確立などの評価とともに、関連する作業機械の技術水準も向上して、普及拡大が進んできました。

特に、当地域にあっては、多収性水稻品種「大地の星」が直播に適していることや冷凍ピラフ用などの需要確保によって、直播栽培面積が急速に増加しております。「直まき10俵どり指南書」を発刊した昨年は、実施面積が108ヘクタールと、全道最大の「水稻直播の実証地」となり、「水稻直まき研究会」も発足に至りました。

今年の実施面積は、倍増の200ヘクタール超が見込まれており、稻作経営の中での直播栽培の重要性は一層増大しています。時機を得て、多くの直播に取り組む生産者の指針となるために、更にヴァージョンアップした第2弾『直まき指南書』を、普及センターのご協力によって、発刊することとなりました。

この『指南書』が皆様の経営発展の一助となり、また、組織による取組が進められ、地域全体の農業活性化に寄与できれば、幸いと存じます。



JAいわみざわ地域農業振興センター  
会長 日村 殉  
(JAいわみざわ常務理事)

## 水稻直播のすすめ

農業者の皆様が、新しい技術に取り組まれていることに対しまして、敬意を表します。

この度、水稻直播の資料提示に当たり、根本的な事柄について述べたいと存じます。作物生育も栽培技術効果も、土壤条件や気象条件に左右されます。それぞれの圃場(ほじょう)に応じて、栽培技術を実践することが肝要です。ある圃場で成果を上げた技術も、別の圃場では成果が上がりにくい場合もあります。技術の本質となるところを見据えて、農作業の質(精度)を高めることが重要です。今回の資料では、作業の勘所となるところを提示することも意識しております。是非、皆さんの作業と照らし合わせてください。

水稻直播は、規模拡大やコスト低減・労力軽減において効果が見込めます。一方、技術の確立や作付割合など、経営における位置づけは、農家個々によって異なると存じます。是非、各戸において方針を持ちつつも、直播栽培志向者との情報交換も重ねて、経営方針を固めることが肝要です。

水稻直播は、田畠輪換にも係わる論議にも関連することもあります。直播に伴う新作物導入や輪作体系は、遠大的な課題です。連作障害や前作後作だけでなく、労働力・収益性や販売体制、さらには需給の将来性等も考慮が必要です。今回はそれに向けての第一歩として情報を提示し、今後は皆さんとともに検討していきたいと存じます。

栽培技術も農業経営の一部として、先人の挑戦のもとに蓄積されてきました。現在の皆さんの想いと英知と実践がさらに上積みされて、次の世代に引き継がれることを期待いたします。



空知農業改良普及センター  
所長 広瀬 勉

## 活用に向けて

まず始めに、昨年発足致しましたJAいわみざわ水稻直まき研究会の事業を関係機関のご協力の下、無事に終えることが出来たことに対しまして厚く御礼申し上げます。

他役員共々、手探りで研究会の1年目の事業を進めて参りました。ハラハラ・ドキドキで始めた直まきの挑戦が稔りつつあり、このように岩見沢方式の直まきのマニュアルが配布できることを、大変感激しているところです。

昨年12月の研究会が開催した試験成績検討会では、10課題を検討し、我々は今後も技術革新を決意を新たにしております。このマニュアルは技術進歩の過程における一応のまとめとして、Vol.1と併せて活用頂ければ幸いです。



JAいわみざわ水稻直まき研究会  
会長 伊藤 浩光

## Contents

### 確認しておこう！ 導入の効果

いわみざわ地域の直播栽培（古くて新しい技術）	1
品種特性を把握し、大地の星で10俵どり！（大地の星の魅力）	2～3
直播栽培の導入のねらい	4
直播栽培の機械導入の投資効果	5～6
直播栽培の導入による経営改善の効果	7～8

### 栽培技術のポイント（湛水・乾田直播）

ほ場準備	9
施肥（基肥・側条・追肥）	10
播種の準備	11～12
播種精度を高めるコツ（湛水直播）	13
苗立確保のポイントと水管理（湛水直播）	14～17
挑戦が続く播種機の工夫	18
播種精度を高めるコツ（乾田直播）	19～20
苗立確保のポイントと水管理（乾田直播）	21～22
雑草対策（発生程度に応じた薬剤処理）	23
収穫までの栽培管理	24

### こんな時どうする

トラブル対処法	25～26
---------	-------

### 農薬の手引き（除草剤）

防除ガイド	27
-------	----

### 制作の裏側

編集後記	28
------	----